

2. 引 用

2-1. 基本的な文型

1. 文型①: 正用例、誤用例
 2. 文型②: 正用例、誤用例
 3. 文型②の類似表現の違い
- + 練習問題
- + 練習問題

2-2. 引用の種類

1. 直接話法と間接話法の表現方法の違い
 2. 直接引用: 正用例
 3. 間接引用: 正用例、誤用例
 4. Webからの引用
- + 練習問題
- + 練習問題

2-3. 著者の意見と書き手の意見の明示

+ 練習問題

2-1. 基本的な文型

引用を表わす場合、次の二つの文型がよく使われる。

文型①

[著者] の [情報源(著作など)]	によると	<情報>	という(ことだ) とのことだ
---------------------------	------	------	-------------------

文型②

[著者] は [情報源(著作など)]	で において	<情報>	と書いている と述べている と言っている
---------------------------	-----------	------	----------------------------

文型①	[著者] の [情報源(著作など)]	によると	<情報>	という(ことだ) とのことだ
-----	---------------------------	------	------	-------------------

○原文 筑波国子『豆腐伝来史』(作例)

豆腐は千五百年ほど前に中国から伝わったものである。

正用例

- ・筑波国子**の**『豆腐伝来史』**によると**、豆腐は千五百年ほど前に中国から伝わった**という**。(注意:「と言う」と漢字表記にしないこと!)
- ・筑波国子**の**『豆腐伝来史』**によると**、豆腐は千五百年ほど前に中国から伝わった**とのことだ**。

文型①	[著者] の [情報源(著作など)]	によると	<情報>	という(ことだ) とのことだ
-----	--------------------	------	------	-------------------

○原文 筑波国子『豆腐伝来史』

豆腐は千五百年ほど前に中国から伝わったものである。

誤用例

- ・筑波国子の『豆腐伝来史』[×]によって、豆腐は千五百年ほど前に中国から伝わったとのことだ。

「[著者]の[著作]」と書いた場合、その後は「によって」ではなく、「によると」にする。

文型①	[著者] の [情報源(著作など)]	によると	<情報>	という(ことだ) とのことだ
-----	--------------------	------	------	-------------------

○原文 筑波国子『豆腐伝来史』

豆腐は千五百年ほど前に中国から伝わったものである。

誤用例

・筑波国子の『豆腐伝来史』によると、豆腐は千五百年ほど前に中国から
 伝わったものと言った・と書いた・と考えられる。

「[著者]の[著作]によると」と書いた場合、文末には「書く・述べる・言う(漢字表記)」などの動詞は使わず、「という(ことだ)・とのことだ」を使う。

<p>文型②</p>	<p>[著者] は [情報源(著作など)]</p>	<p>で において</p>	<p><情報></p>	<p>と書いている と述べている と言っている</p>
------------	----------------------------------	------------------------	-------------------	-------------------------------------

○原文 筑波国子『豆腐伝来史』

豆腐は千五百年ほど前に中国から伝わったものである。

正用例

- ・筑波国子**は**『豆腐伝来史』**で**、豆腐は千五百年ほど前に中国から伝わったものだと**書いている**。
- ・筑波国子**は**『豆腐伝来史』**において**、豆腐は千五百年ほど前に中国から伝わったものだと**述べている**。

<p>文型②</p>	<p>[著者] は [情報源(著作など)]</p>	<p>で において</p>	<p><情報></p>	<p>と書いている と述べている と言っている</p>
------------	----------------------------------	-------------------	-------------------	-------------------------------------

○原文 筑波国子『豆腐伝来史』

豆腐は千五百年ほど前に中国から伝わったものである。

誤用例

- ・筑波国子**は**『豆腐伝来史』によって、豆腐は千五百年ほど前に中国から
×
 伝わったものであると書いている。

「[著者]**は**[著作]」と書いた場合、その後は「によって」ではなく、「**で**」または「**において**」にする。

<p>文型②</p>	<p>[著者] は [情報源(著作など)]</p>	<p>で において</p>	<p><情報></p>	<p>と書いている と述べている と言っている</p>
------------	----------------------------------	-------------------	-------------------	-------------------------------------

○原文 筑波国子『豆腐伝来史』

豆腐は千五百年ほど前に中国から伝わったものである。

誤用例

- ・筑波国子は『豆腐伝来史』**で**、豆腐は千五百年ほど前に中国から伝わったものであるということだ。
×

「[著者]は[著作]で・において」の文末は「と書いている・と述べている・と言っている」を使う。

下記の文章を読んで、日本にはじめて伝わった自転車はどのようなものだったか、二つの「基本的な文型」を使って引用文を作りなさい。

自転車がはじめて日本に伝わったのは明治三(1870)年で、車輪もボディーもすべて木製。両足でペダルを交互に踏むとノロノロ走るといふ、おもちゃのようなものだった。

(紀田順一郎 1985『近代百年カレンダー』:170)

自転車がはじめて日本に伝わったのは明治三(1870)年で、車輪もボディーもすべて木製。両足でペダルを交互に踏むとノロノロ走るといふ、おもちゃのようなものだった。

(紀田順一郎 1985『近代百年カレンダー』:170)

<解答例>

- ①. 紀田順一郎の『近代百年カレンダー』によると、自転車が日本に伝わったのは明治三(1870)年だということだ。
- ②-1. 紀田順一郎は『近代百年カレンダー』において、日本に伝わった時の自転車はおもちゃのようなものであったと書いている。
- ②-2. 紀田順一郎は『近代百年カレンダー』で、日本に伝わった時の自転車はすべて木製であったと書いている。

下記の文章を読んで、野崎は「逆接」にどのような意味があると述べていますか。引用文の二つの「基本的な文型」を使って書きなさい。

逆説とはもともと、パラドックスを訳したことばである。パラドックスとは「オーソドックスでない意見」とか「常識に反する主張」という意味である。

(野崎昭弘 1980『逆接論理学』:17)

逆説とはもともと、パラドックスを訳したことばである。パラドックスとは「オーソドックスでない意見」とか「常識に反する主張」という意味である。

(野崎昭弘 1980『逆接論理学』:17)

<解答例>

- ①-1. 野崎昭弘の『逆接論理学』によると、「逆接」には「オーソドックスでない意見」とか「常識に反する主張」という意味があるという。
- ①-2. 野崎昭弘(1980)によると、「逆接」には「オーソドックスでない意見」とか「常識に反する主張」という意味があるという。
- ②-1. 野崎昭弘は『逆接論理学』において、「逆接」には「オーソドックスでない意見」とか「常識に反する主張」という意味があると述べている。
- ②-2. 野崎昭弘は『逆接論理学』で、「逆接」には「オーソドックスでない意見」とか「常識に反する主張」という意味があると書いている(言っている)。

類似表現の違い

と言っている

根拠(情報源)が具体的にわかる場合にしか使えない。

と言う

根拠(情報源)が具体的にわからない場合でも使える。

と言われ(ている)

情報源が不明だったり、意図的にはっきりと言わない場合に使う。

と言える

自分の意見を表わす場合に使う。

客観的

主観的

類似表現の違い

: 文脈を同じにした比較

と言っている

…情報源が具体的にわかる場合でしか使えない

本田隆一は、朝食にリンゴを食べるのは健康に良いと言っている。

と言う

…情報源が具体的にわからない場合でも使える

ある医者は、朝食にリンゴを食べるのは健康に良いと言う。

と言われ(ている)

…情報源が不明／あえて明示しない場合に使う

(一般的に)朝食にリンゴを食べるのは健康に良いと言われ(ている)。

と言える

…自分の意見を表わす場合に使う

(私の経験から)朝食にリンゴを食べるのは健康に良いと言える。

類似表現の違いの例

①池野保雄は「弱い者をいじめる者は、心が弱い者である」と言っている。

②いじめは昔からあったと言われている。だが、今のものとは少々違っていたようだ。③ある統計によると、全国の学校の約半分でいじめがあるという。④これはもう、学校の中だけでは解決できない問題だと言える。

①:「弱い者をいじめる者は～」と言った人物(情報源)の具体的な名前が「池野保雄」と明示されているので、「**と言っている**」を使う。

②:「具体的に誰かが『いじめは昔からあった』と言ったわけではないが、一般的にそう考えている人が多いと思う」という意味で「**と言われている**」を使う。

③:「ある統計によると」という情報源はあるが、その具体的な名前が書かれていない(わからない)ので、「**という**」を使う。
(この例では「によると」があるので「という」と仮名で表示されている。)

④:①～③の内容を根拠にして自分の考えを表明しているので、「**と言える**」を使う。

下の問題文を読んで、問題に答えなさい。

「雑煮」について、大阪で育った作家長谷川幸延の『味の芸談』（昭和41年）によると、大阪では「元日、二日と味噌立てにする家と、元日は味噌、二日は焼雑煮にする家」があり、長谷川家は前の方のスタイルだったという。

（槌田満文1985『ことばの風物誌』:17）

<問題>

①下線部「という」はどのような意味ですか。

練習問題3-1

類似表現の違い

「雑煮」について、大阪で育った作家長谷川幸延の『味の芸談』（昭和41年）によると、大阪では「元日、二日と味噌立てにする家と、元日は味噌、二日は焼雑煮にする家」があり、長谷川家は前の方のスタイルだったという。
（槌田満文1985『ことばの風物誌』:17）

<問題>

②下線部を「と言っている・と言われている・と言える」にした場合の説明として、ふさわしいものを線でつなぎなさい。

「と言っている」・

- ・ 前の文脈が「長谷川家は前の方のスタイルだった」の根拠とはなっていないので、この表現は使えない。

「と言われている」・

- ・ 情報源がはっきりとわかっているなので、この表現も使用できる。

「と言える」・

- ・ 「長谷川家は前の方のスタイルだった」の情報源が『味の芸談』と明示されているので、この表現は使用できない。

下の問題文を読んで、問題に答えなさい。

「雑煮」について、大阪で育った作家長谷川幸延の『味の芸談』（昭和41年）によると、大阪では「元日、二日と味噌立てにする家と、元日は味噌、二日は焼雑煮にする家」があり、長谷川家は前の方のスタイルだったという。

（槌田満文1985『ことばの風物誌』:17）

<問題>

①下線部「という」はどのような意味ですか。

情報源である（『味の芸談』）に書いてある情報から引用していることを表わしている。

練習問題3-1

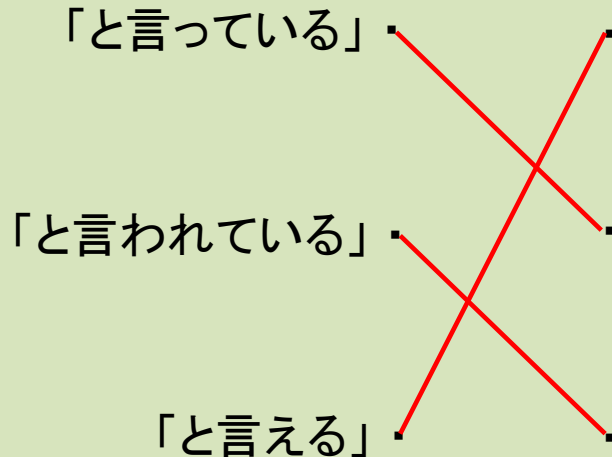
類似表現の違い

解答

「雑煮」について、大阪で育った作家長谷川幸延の『味の芸談』(昭和41年)によると、大阪では「元日、二日と味噌立てにする家と、元日は味噌、二日は焼雑煮にする家」があり、長谷川家は前の方のスタイルだったという。
(槌田満文1985『ことばの風物誌』:17)

<問題>

②下線部を「と言っている・と言われている・と言える」にした場合の説明として、ふさわしいものを線でつなぎなさい。



前の文脈が「長谷川家は前の方のスタイルだった」の根拠とはなっていないので、この表現は使えない。

情報源がはっきりとわかっているので、この表現も使用できる。

「長谷川家は～だったと言っている。」

「長谷川家は前の方のスタイルだった」の情報源が『味の芸談』と明示されているので、この表現は使用できない。

練習問題3-1

類似表現の違い

「と言える」の補足～「と言える」の正用文の例～

「長谷川家は前の方のスタイルだった」という部分の根拠が(前の文脈に) あれば許容できる。

<例>

「雑煮」について、大阪で育った作家長谷川幸延の『味の芸談』(昭和41年)には、大阪では「元日、二日と味噌立てにする家と、元日は味噌、二日は焼雑煮にする家」があったと書いており、また長谷川は二日目の味噌の雑煮が特別おいしいと言っていたそうだから、長谷川家は前の方のスタイルだったと言える。

練習問題3-2

類似表現の違い



下の問題文を読んで、問題に答えなさい。

言語はその国の文化や精神を反映すると[]。

<問題>

[]に入る表現として、「言う」をふさわしい形にしなさい。また、その理由を答えなさい。

練習問題3-2

類似表現の違い

解答



下の問題文を読んで、問題に答えなさい。

言語はその国の文化や精神を反映すると[]。

<問題>

[]に入る表現として、「言う」をふさわしい形にしなさい。また、その理由を答えなさい。

答:言われている

理由:主張の情報源が具体的に書いてないから。

2-2. 引用の種類

直接引用

情報源の文言をそのまま書く。直接話法。

情報源の中で、**確定的・断定的に定義されている部分**や**そのままの文言を使うことに意味がある**と考えられる場合に使う。

間接引用

書き手が情報源の内容を要約して書く。間接話法。

情報源の中で、そのままの文言よりも、**そこで言われている内容が重要だ**と考えられる場合に使う。
また、**あいまいに定義されている部分をまとめなおす**場合にも使う。

直接引用と間接引用の表現方法の違い

	直接引用	間接引用
①	「」を使う	「」を使わない
②	間投詞（さあ、ああ等）が使える	間投詞は使わない
③	終助詞（ね、よ等）が使える	終助詞は使わない
④	丁寧体・普通体	普通体
⑤	依頼の表現 「～てください／～ないてください」	願望の表現 「～てほしい／～ないでほしい」 「～するように／～ないように」
⑥	質問文 「(疑問詞)～(です／ます)か」	質問文 「疑問詞～か V (聞く・たずねる等)」 「～かどうか V (聞く・たずねる等)」

表現の違い①～⑤の例

※ 間接引用では、①「」 ②間投詞 ③終助詞 ④丁寧体 は書かない。

直接:

Aさんは先輩に 「^①あ^②っ、財布が落ち^④ましたよ^③」^① と言った。

間接:

Aさんは先輩に、財布が落ちたと言った。

※ 間接引用では、⑤「依頼の表現」は「願望の表現」にする。

直接: 美術館の人に、「館内では静かに **してください** 」と注意された。

間接: 美術館の人に、館内では静かに **するように／してほしい** と注意された。

直接: 美術館の人に、「館内では飲食を **しないでください** 」と注意された。

間接: 美術館の人に、館内では飲食を **しないように／しないでほしい** と注意された。

表現の違い⑥の例

※ 疑問詞 (Question Word: いつ、どこ、だれ、なに) を使う質問文と使わない質問文で表現が異なる。

QWがある場合 : QW～か＋と＋動詞

直接: Bさんに、「**どこ**でチケットが**買えますか**」と聞かれた。
間接: Bさんに、「**どこ**でチケットが**買えるか**(と)聞かれた。

QWがない場合 : ～かどうか＋動詞

直接: Bさんに、「**ここで**チケットが**買えますか**」と聞かれた。
間接: Bさんに、「**ここで**チケットが**買えるかどうか**(と)聞かれた。

直接引用と間接引用

○原文 筑波国子『豆腐伝来史』

今では日本料理に欠かせない豆腐であるが、この豆腐は千五百年ほど前に中国から伝わったものである。

直接引用の正用例

筑波国子は『豆腐伝来史』において、「豆腐は千五百年ほど前に中国から伝わったものである」と書いている。

直接引用では、引用部分に「」（かぎかっこ）をつけて書く。

間接引用の正用例

多くの日本人が大好きな豆腐だが、筑波国子の『豆腐伝来史』によると、豆腐は千五百年ほど前に中国から伝わったものだという。

間接引用

○原文 筑波国子『豆腐伝来史』

今では日本料理に欠かせない豆腐であるが、この豆腐は千五百年ほど前に中国から伝わったものである。

誤用例

多くの日本人が大好きな豆腐だが、豆腐は千五百年ほど前に中国から伝わったものだと筑波国子は『豆腐伝来史』に書いている。

「多くの日本人が大好きな豆腐だ」はこの作文の書き手の意見であって、著者(筑波国子)の意見ではない。「著者の意見」の前の部分に情報源を入れると、そのあとが著者の意見だとはっきりわかる。

正用例 (前ページの再掲)

多くの日本人が大好きな豆腐だが、筑波国子の『豆腐伝来史』によると、豆腐は千五百年ほど前に中国から伝わったものだそうである。

間接引用

○原文 齋藤孝『読書力』岩波新書、2002年

本を要約できる力は、読解の基本だ。要約力がなければ本を読んではいけないということではない。むしろ、読書を通じて要約力を鍛えることがねらいだ。

正用例

- ・齋藤孝は『読書力』のなかで、本を要約できる力は読解の基本であり、それは読書を通じて鍛えられるものであると述べている。

間接引用は、著者の主張したい内容を要約する時に使う。

下記の文章を読んで、お茶はいつ、だれによって日本に伝わったのかを、直接引用と間接引用を使って書きなさい。

お茶が日本に伝わったのは、奈良時代といわれ、日本の僧が中国から伝えたといわれている。

(米山俊直 1990『日本人ことはじめ物語』:129)

お茶が日本に伝わったのは、奈良時代といわれ、日本の僧が中国から伝えたといわれている。

(米山俊直 1990『日本人ことはじめ物語』: 129)

<直接引用の例>

- ・ 米山俊直は『日本人ことはじめ物語』において、「お茶が日本に伝わったのは、奈良時代といわれ、日本の僧が中国から伝えたといわれている」と書いている。
- ・ 米山俊直(1990)によると、「お茶が日本に伝わったのは、奈良時代といわれ、日本の僧が中国から伝えたといわれている」ということだ。

<間接引用の例>

- ・ 米山俊直の『日本人ことはじめ物語』によると、日本にお茶が伝わったのは奈良時代で、日本の僧が中国から伝えたという。
- ・ 米山俊直(1990)によると、奈良時代に日本の僧が中国からお茶を伝えたとのことである。

下記の文章を読んで、直接引用と間接引用の文を作りなさい。

明治時代には「見せ物」だった電気は、大正時代に「安全な商品」になった。エジソンの電球は明治時代にあったが、日本の一般家庭に電気が普及したのは大正時代である。以後、「照明」から「交通」へ、さらに「心の交通<コミュニケーション>」へと、電気はその用途を広げてきた。

(佐藤卓己 2012「『個人より集団』への転回」:67)

明治時代には「見せ物」だった電気は、大正時代に「安全な商品」になった。エジソンの電球は明治時代にあったが、日本の一般家庭に電気が普及したのは大正時代である。以後、「照明」から「交通」へ、さらに「心の交通<コミュニケーション>」へと、電気はその用途を広げてきた。

(佐藤卓己 2012「『個人より集団』への転回」:67)

<直接引用の例>

- ・ 佐藤(2012)は「日本の一般家庭に電気が普及したのは大正時代である」と書いている。
- ・ 佐藤卓己の「『個人より集団』への転回」によると、「日本の一般家庭に電気が普及したのは大正時代である」ということだ。
- ・ 佐藤(2012)は「日本の一般家庭に電気が普及したのは大正時代である」とし、その後電気は照明や交通、コミュニケーションなどのさまざまな生活の側面に広がっていったと述べている。

明治時代には「見せ物」だった電気は、大正時代に「安全な商品」になった。エジソンの電球は明治時代にあったが、日本の一般家庭に電気が普及したのは大正時代である。以後、「照明」から「交通」へ、さらに「心の交通<コミュニケーション>」へと、電気はその用途を広げてきた。

(佐藤卓己 2012「『個人より集団』への転回」:67)

<間接引用の例>

- ・ 佐藤卓己の「『個人より集団』への転回」によると、日本で電気製品が普及したのは大正時代だということである。
- ・ 佐藤(2012)によると、日本の一般家庭に電気が普及したのは大正時代であり、その後さまざまな生活の側面に電気は広がっていったという。
- ・ 日本で電気製品が普及したのは大正時代だと佐藤卓己(2012)は述べている。

Webからの引用

農林水産省のHPによると、平成28年度の日本のカロリーベースの自給率は38%であった。

(農林水産省ホームページ「日本の自給率」

http://www.maff.go.jp/j/zyukyu/zikyu_ritu/012.html、2017年9月20日閲覧)

※公式の統計情報を引用する場合、引用文の文末は「である・であった」だけでもよい。(もちろん「ということだ」等の表現をつけてもよい。)

※引用文の後に URL も書く。

※閲覧(アクセス、参照)した日付も書く。

下記のWEB情報より、引用文を作りなさい。

結果の概要

I 世帯数と世帯人員の状況

1 世帯構造及び世帯類型の状況

2018(平成30)年6月7日現在における全国の世帯総数は5099万1千世帯となっている。世帯構造をみると、「夫婦と未婚の子のみの世帯」が1485万1千世帯(全世帯の29.1%)で最も多く、次いで「単独世帯」が1412万5千世帯(同27.7%)、「夫婦のみの世帯」が1227万世帯(同24.1%)となっている。

世帯類型をみると、「高齢者世帯」は1406万3千世帯(全世帯の27.6%)となっている。(表1、図1)

(<https://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/k-tyosa/k-tyosa18/dl/02.pdf>

2019年9月25日^{えつらん}閲覧)

<解答例>

- ・厚生労働省のHPによると、平成30年度の日本全国の総世帯数は約5100万世帯であった。
- ・厚生労働省のHPによると、平成30年度の日本の「夫婦と未婚の子のみの世帯」数はおよそ1500万弱で、全世帯の30%弱を占めているとのことである。
- ・厚生労働省のHPによると、平成30年度の日本の「高齢者世帯」の割合は27.6%とのことであり、全世帯の四分の一以上を占めていることがわかる。

◎文末には、必ずURLとアクセスをした日付を書くこと。

(<https://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/k-tyosa/k-tyosa18/dl/02.pdf>、2019年9月25日閲覧)

2-3. 著者の意見と書き手の意見の明示

※ 引用元の文章を書いた人(=著者)の意見なのか、作文を書いている人(=書き手)の意見なのかをはっきりと分かりやすく書かなければならない。

○原文 小林隆・澤村美幸『ものの言いかた西東』岩波新書、2014年
異文化体験、と言うと、外国の文化との接触のことだろうと思われるかもしれない。そうではない。日本国内の文化の違い、しかも、言葉遣いの地域差に関することである。

正用例

- ・小林隆・澤村美幸の『ものの言いかた西東』によると、日本国内にも文化差があり、言葉遣いの地域差があるという。著者たちはこのような違いは異文化体験と同じだと考えている。

○原文 小林隆・澤村美幸『ものの言いかた西東』岩波新書、2014年

異文化体験、と言うと、外国の文化との接触のことだろうと思われるかもしれない。そうではない。日本国内の文化の違い、しかも、言葉遣いの地域差に関することである。

誤用例

- ・小林隆・澤村美幸の『ものの言いかた西東』によると、日本国内にも文化差があり、言葉遣いの地域差があるという。このような違いは異文化体験と同じだと考えられる。

※ _____の文は、著者の意見なのか書き手の意見なのかが分かりづらい。

- 著者の意見を表わす場合…「(著者は)考えている」のようにテイル形を使う
- 書き手の意見を表わす場合…「考えられる」のように受身形を使う

⇒上例は著者の意見をまとめているので、テイル形を使う(☞ 正用例)

練習問題6-1

2-3. 著者の意見と書き手の意見の明示



下記の文章を読んで、筆者の述べている部分とあなたの意見の部分がはっきりわかるような引用文を作りなさい。

テニスは約600年前にでき、日本には1878年に伝わった。
(紀田順一郎 1985『近代百年カレンダー』:202)

テニスは約600年前にでき、日本には1878年に伝わった。
(紀田順一郎 1985『近代百年カレンダー』:202)

<解答例>…青字=書き手の意見、赤字=著者の意見

- 今では多くの国で楽しまれているテニスだが、紀田(1985)によると、今から約600年前にテニスが出来たということである。
- 日本では最近テニスの人気が高くなっているが、紀田(1985)によると、日本にテニスが伝わったのは1878年だという。
- 紀田(1985)によると、テニスが出来たのは今から約600年前とのことであるが、今では多くの国で楽しまれている。
- 紀田(1985)によると、日本にテニスが伝わったのは1878年とのことであるが、そうすると日本のテニスの歴史は150年ぐらいあることになる。

下記の文章を読んで、筆者の述べている部分とあなたの意見の部分がはっきりわかるような引用文を作りなさい。

明治期を通じて「教養」という言葉は「教育」という言葉とほぼ同じ意味で使われていたのであって、多くの翻訳者が education の訳語に「教養」を用いていたのである。

(筒井清忠 2009『日本型「教養」の運命』: 101)

明治期を通じて「教養」という言葉は「教育」という言葉とほぼ同じ意味で使われていたのであって、多くの翻訳者が education の訳語に「教養」を用いていたのである。

(筒井清忠 2009『日本型「教養」の運命』:101)

<解答例>…青字=書き手の意見、赤字=著者の意見

- ・ 現在では「教育」と「教養」は異なる概念と考えられているが、筒井(2009)によると、明治期には「教養」と「教育」はほぼ同義の語として用いられていたという。
- ・ 現在ではeducationは「教育」と訳されるのが一般的であるが、筒井(2009)によると、「教養」と「教育」は明治期にはほぼ同義の語として用いられており、多くの翻訳者はeducationの訳語に「教養」を用いていたとのことである。

練習問題6-3

2-3. 著者の意見と書き手の意見の明示



下記の文章を読んで、著者の主張がはっきりわかるように60字程度にまとめなさい。

子どもはその発達の上、二つのことばの獲得を迫られる。

一つはいわゆる「ことばの誕生」ともよばれる、乳児期から幼児期にかけての、あの親たちを喜ばせてやまぬことばである。そして今一つは、子どもが学校時代を通して、新たに身につけてゆくことを求められることばである。

私たちおとなのことばは、こうした二つのことばの重層性において成り立つ。このことを無視したことばや言語についての議論は、十分な深さにいたらないままに終わるのではないかと思われる。

(岡本夏木 1985『ことばと発達』:1)

子どもはその発達の途上、二つのことばの獲得を迫られる。

一つはいわゆる「ことばの誕生」ともよばれる、乳児期から幼児期にかけての、あの親たちを喜ばせてやまぬことばである。そして今一つは、子どもが学校時代を通して、新たに身につけてゆくことを求められることばである。

私たちおとなのことばは、こうした二つのことばの重層性において成り立つ。このことを無視したことばや言語についての議論は、十分な深さにいたらないままに終わるのではないかと思われる。（岡本夏木 1985『ことばと発達』:1）

<解答例>

- ・ 岡本は、子どものことばの獲得には二つの側面があるが、それを無視したことばや言語の議論は十分な深さにいたらないと考えている。
- ・ 岡本は、子どものことばの獲得に二つの側面を認め、それを無視したことばや言語の議論は浅いものになってしまいかねないと考えている。

<用語の説明>

引用 (p.1)

自分の意見や主張を補足・補完するために、他の書物や論文から一部を抜き出し（または要約して）、自分の論文やレポートに入れること。

情報源 (p.3)

引用する情報の出どころ。引用の場合は「他の書物や論文」などが当たる。

根拠 (p.14)

判断する時の拠り所となるもの。場合により「情報源」と同じ意味で用いる。

直接引用 (p.24)

引用のしかたの一つで、情報源の内容をそのまま書く書き方。「直接話法」とも言う。

間接引用 (p.24)

引用のしかたの一つで、情報源の内容を要約して書く書き方。「間接話法」とも言う。

間投詞 (p.25)

発話時に瞬間的に生じた感情を表わすことば。発話で見られる具体的な表現をそのまま文字にしたものが多い。「あっ／えっ／あれっ」など。

終助詞 (p.25)

発話や文の終わりに位置する助詞。「(パンを食べた)ね／よ／な」など。

<練習問題に用いた文献>

岡本夏木(1985)『ことばと発達』、岩波書店(岩波新書)

ガイ・ドイッチャー(2012)『言語が違えば、世界も違って見えるわけ』、椋田直子訳、インターシフト

紀田順一郎(1985)『近代百年カレンダー』、旺文社(旺文社文庫)

佐藤卓己(2012)『『個人より集団』への転回』、毎日新聞社編『大正という時代』:67-70

槌田満文(1985)『ことばの風物誌』、角川書店(角川文庫)

筒井清忠(2009)『日本型「教養」の運命』、岩波書店(岩波現代文庫)

野崎昭弘(1980)『逆説論理学』、中央公論社(中公新書)

米山俊直(1990)『日本人ことはじめ物語』、PHP研究所

<本文に用いた文献>

小林隆・澤村美幸(2014)『ものの言いかた西東』岩波書店(岩波新書)

齋藤孝(2002)『読書力』岩波書店(岩波新書)

――引用に際し、一部改変したことを附記しておきます。

◆クリエイティブ・コモンズ・ライセンス による公開について

この教材は「クリエイティブ・コモンズ・ライセンス」(<https://creativecommons.jp/>)に従って以下のように公開しています。

表示—非営利—継承



「原作者のクレジット(氏名、作品タイトルなど)を表示し、かつ非営利目的に限り、また改変を行った際には元の作品と同じ組み合わせのCCライセンスで公開することを主な条件に、改変したり再配布したりすることができるCCライセンス。」

著作権

筆者の木戸光子・加藤あさぎ・小池康・平形裕紀子・石川早苗・君村千尋が保持します。

使用許諾

個人の学習や授業での利用の場合は、自由にお使いください。使用する時は出典の明記をお願いします。また、改変や再配布するときも、出典を明示してください。

出典:「留学生のための日本語作文ガイドブック」木戸光子・加藤あさぎ・小池康・平形裕紀子・石川早苗・君村千尋、2022年
<https://nihongosakubun.jimdoofree.com/>

営利目的では使用しないでください。その他、使用について質問があれば【連絡先】にお問い合わせください。